

めぐみイエス・キリスト教会

2026年3月15日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第799号」



2026年標題聖句

ヨハネの福音書14章1節～2節

《「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、また私を信じなさい。私の父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、私は場所を備えに行くのです。」(新改訳第Ⅱ版)》

礼拝 毎週日曜日 午前10時～11時

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌233「驚くばかりの」 p. 354

【交読文】 No.5 詩篇第19篇 p. 882

【賛美Ⅱ】 新聖歌340「救い主イエスと」 p. 540

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「私の十字架」

【聖書朗読】 ルカの福音書12章41節～48節

【礼拝説教】 「忠実で賢い管理人」

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカ伝12章41節～48節 新約p.143上段)

12:41 そこで、ペテロが言った。「主よ。このたとえを話されたのは私たちのためですか、皆のためですか。」

12:42 主は言われた。「では、主人によって、その家の召使いたちの上に任命され、食事時には彼らに決められた分を与える、忠実で賢い管理人とは、いったいどれでしょうか。」

12:43 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。

12:44 まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せるようになります。

12:45 もし、そのしもべが心の中で、『主人の帰りは遅くなる』と思い、

男女の召使いたちを打ちたたき、食べたり飲んだり、酒に酔ったりし始めるなら、

12:46 そのしもべの主人は、予期していない日、思いがけない時に帰って来て、彼を厳しく罰し不忠実な者たちと同じ報いを与えます。

12:47 主人の思いを知りながら用意もせず、その思いどおりに働きもしなかったしもべは、むちでひどく打たれます。

12:48 しかし、主人の思いを知らずにいて、むち打たれるに値することをしたしもべは、少ししか打たれません。多く与えられた者はみな、多くを求められ、多く任された者は、さらに多くを要求されます。」

●ポイント1.「主人の帰りを待つ忠実なしもべのたとえ」とは？

※ルカの福音書12章35節～40節「目を覚まして」（新約p.142下段）

●ポイント2.「主人によって」とは？

※ヨハネの福音書15章16節「最後の晩餐において」(新約p.216下段)

15:16 「あなたがたが私を選んだのではなく、私があなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたが私の名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。」

●ポイント3.「主人の思い」とは？

※ヨハネの福音書3章16節「父なる神の思い」（新約p.180下段）

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

※使徒の働き1章8節抜粋「昇天直前の主の言葉」（新約p.232下段）

1:8 「聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となります。」

◎先週のメッセージ【思いがけない時に】

《主イエスは、例え話を用いて、弟子たちに対して、また、再臨されるご自身を待ち望む者に対して、その心構えを教えてください。

「腰に帯を締め」と言うことは、主のしもべであることを、常に意識しなさい、と言うことであり、「明かりをともしていなさい」と言うことは、私たちの光を人々の前で輝かせ、私たちの良い行ないを見て、天の父なる神様をあがめるようにしなさい、と言うことです。

また、「目を覚ましていなさい」とも言われましたが、これは霊的に目を覚ますことであり、常に祈ることを心がけることだと思われま

す。そして、「まことに、あなたがたに言います。主人のほう

が帯を締め、そのしもべたちを食卓に着かせ、側に来て給仕してくれま

す。そのしもべたちは幸いです。」とされました。これは、天における私

たちの報いが、非常に大きいことを教えてください。

「このことを知っておきなさい。もしも家の主人が、泥棒の来る時間を知っていたら、自分の家に押し入るのを許さないでしょう。」

この例えは携挙を表わしています。ところで、携挙は何時起きるのでしょうか。それは「思いがけない時」であると言うのです。マタイの福音書では、さらに主イエスが詳しく話されたことが、書かれています。「ただし、その日、その時が何時なのかは、誰も知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。人の子の到来はノアの日と同じように実現するのです。洪水前の日々にはノアが箱舟に入っているその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていました。洪水が来て、すべての人をさらってしまうまで、彼らには分かりませんでした。」と。この時、自称クリスチャンと本物のクリスチャンとの区別が明確になります。しかし、私たちは決して慌てることなく、じっくりと聖書のみ言葉に腰を下ろして、主イエスを信頼し、日々の暮らしを神様と共に過ごして行こうではありませんか。》

◎お知らせ

※第4主日礼拝は、2026年3月22日(日)午前10時から行ないます。